

ナス・ピーマン品種の ハイワイヤー栽培での適応性検定

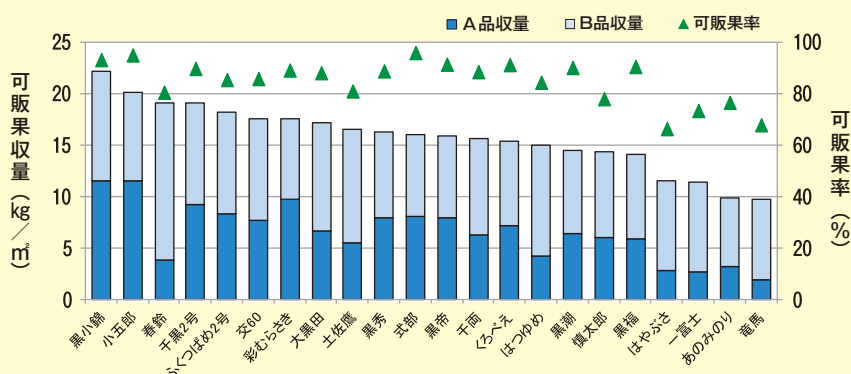


図1 既存ナス品種の収量(収穫期間 2012年10月～2013年4月)

[耕種概要] 播種: 穂木 7/15、台木 7/13、接木: 8/1、定植: 9/3

栽植様式: うね幅 1.8m、株間 70cm、2条千鳥植え、主枝2本垣根仕立て、側枝1芽摘心栽培
生長点のワイヤー到達時期: 4月以降、収穫果実重: 100g

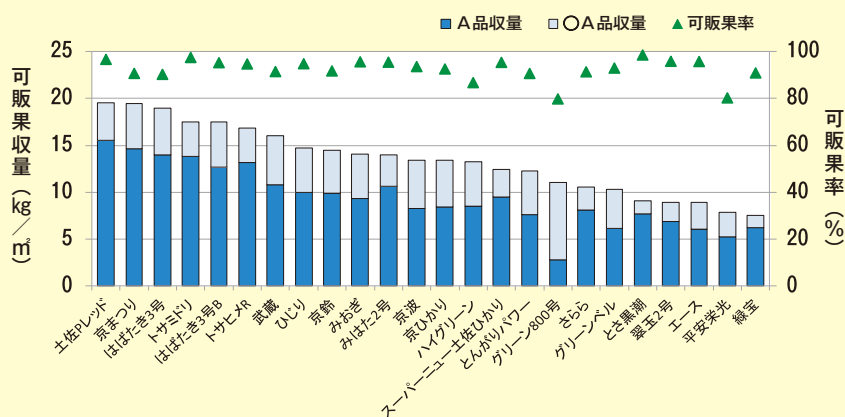


図2 既存ピーマン品種の収量(収穫期間 2012年10月～2013年5月)

[耕種概要] 播種: 8/9、定植: 9/14～24

栽植様式: うね幅 1.8m、株間 35cm、2条千鳥植え、主枝2本垣根仕立て、側枝3節摘心切戻し栽培
生長点のワイヤー到達時期: 2月以降、収穫果実重: 40g

高知県では高軒高ハウスでのハイワイヤー栽培に適したナス・ピーマンオリジナル品種の育成に取り組んでいます。今回、品種育成を効率的に進めるための基礎的知見を得る目的で、既存のナス22品種、ピーマン24品種を軒高4m(ワイヤーの高さは3m)のハウスでハイワイヤー土耕栽培し、高収量品種に共通する特性を調査しました。

ナスでは‘黒小錦’、‘小五郎’等の収量性が高く(図1)、草勢および茎頂部の大きさと可販果収量の間に正の相関が見られました(データ省略)。

ピーマンでは‘土佐Pレッド’、‘京まつり’等の収量性が高く(図2)、草勢、着果、および主枝節間長と可販果収量の間に正の相関が見られました(データ省略)。

以上の結果より、草勢、茎頂部の太さ、着果、主枝節間長に着目することで多収品種の育成が効率よくできると考えられました。今後はこれらの知見をもとに、品種育成を加速して行く予定です。

(園芸育種担当 戸梶賀仁・小笠原一真

088-863-4916)